

# 経営探訪

有限会社 栗久

栗久をヒット商品「おひつ」内部の底隅に丸みをつける作業をする栗盛さん。使う人の立場にたった使いやすい「曲げわっぱ」が身上だ。

## 時代に必要とされる工芸品を目指して 機能美と造形美の飽くなき探究

大館曲げわっぱは秋田県を代表する伝統工芸品の一つ。秋田杉の素材の美しさを生かした出来栄えと、日本の食生活を支えてきた機能性を併せ持っている。「栗久」は受け継いできた伝統技術を活かしながら、時代やニーズに合わせた製品づくりに取り組んでいる。その根幹には「良いものを次の時代に遺す」という職人の矜持がある。



伝統工芸士  
栗盛 俊二  
Syunji Kurimori

### 父の跡を継ぎ、ものづくりの世界へ

大館曲げわっぱを製造販売する「栗久」は、栗盛俊二さんが6代目を継ぐ老舗。大館市中町の商店街沿いに、ギャラリーと工房を構えて営業を続けている。

俊二さんが曲げわっぱ職人になったのは、5代目だった父の影響がある。父親が桜皮細工の職人、伯父が曲げわっぱ職人という環境で育った俊二さんは、能代工業高校木材工芸科に進学した。ここでの日々を俊二さんは「家具や建具の基本を学ぶことができ、私のためにあるような環境だった」と振り返る。そして卒業後に栗久に入り、曲げわっぱ職人の道に進んだ。父と異なる選択をしたのは「店で桜皮細工と曲げわっぱの両方を手がけており、父が前者を担当していたので、自分が曲げわっぱの担い手になれば父の助けになる」との思いが

あった。ところが、転機は早くに訪れる。20歳のとき、父が体調不良から代表を退き、俊二さんが店を継ぐことになった。若くしてものづくりの前線に立ち、創意工夫と試行錯誤を重ね、時には父の助言を仰ぎながら50余年、ひたむきに取り組んできた。

### 技術の伝承に栗久ならではの創意工夫を

大館曲げわっぱを語るとき、まず秋田杉について触れねばならないと俊二さんは切り出した。曲げ物は日本各地に存在するが、大館まげわっぱは特に木目が稠密で強度が高い。それは200年以上に渡って人の手で植えられ、育てられた秋田杉だからこそその品質だ。栗久で使う節一つない秋田杉は、植樹10年を目処に下の枝を払う「裾刈り」という過程を経なければ育たないもの。数多の先人の仕事によって今の栗久の仕事が支えられて

いるという感謝の念は、素材を一級品にして後世に伝えたいという使命感に繋がっている。

曲げわっぱの魅力は道具としての機能性の高さにある。その良さをシンプルに実感できるのは「おひつ」。おひつに入れたご飯が時間を経ても美味しいのは、白木の秋田杉が余計な水分を吸収し、冷めてもふっくらとした状態を保ってくれるからである。杉の殺菌効果とほのかな香りも美味しさを保つのに一役買っており、曲げわっぱで食べるお弁当が美味しいのも同じ理由だ。さらに栗久のおひつは、ご飯をすくいやすく、手入れもしやすいようにと、底の隅に緩い曲面加工を施している。この一手間でご飯が詰まりに詰まることがなくなり、現代に生きる知恵として、グッドデザイン賞(平成14年)の受賞に至っている。

「工芸品は機能的でなければならない」「その時代のお母さんたちが必要とするものを作り続けることが仕事」。取材中に幾度となく繰り返したこの言葉の奥に、ものづくりの信念が窺える。

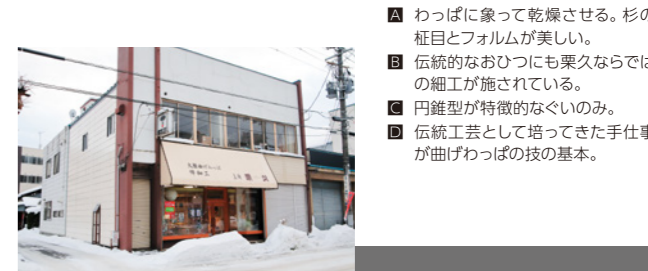
### 次代に繋がる新「曲げわっぱ」の提案

栗久の製品にはもう一つの大きな特徴がある。それはカップや酒器、お椀などに見られる手法で、秋田杉の薄板を斜めに巻いて作る円錐形の曲げわっぱだ。木目の美しさが際立ち、かつ、モダンな雰囲気や匂いを匂わすこのデザインは、曲げわっぱと飲み物や汁物との相性の良さを実感できる。熱伝導率の低い杉はガラスや金属などよりも保温効果が高い。温かいものは熱を手伝えず、冷たいものは結露を抑えて、共に淹れたてのまま保つことができる。平成24年にはグッドデザイン・ロングライフデザイン賞を受賞し、栗久の代表作の一つとなった。

こうしたものづくりに取り組む傍ら、「伝えること」と「聞くこと」にも余念がない。俊二さんは全国の有名デパートで開催される職人展での実演販売に積極的に出向き、常にお客さんに接することを心がけている。目の前で曲げわっぱを作り、手に取ってもらうことで、美しさや機能性を自分の言葉で伝えると同時に、お客さんの反応を直接感じ取ることで、現代の生活者の感性やニーズを確認する。職人としての鮮度を保つための秘訣だ。

さらにその活動は海を越える。昨年10月にはアメリカ・ニューヨークで3回目の展示会を開催。食文化の異なる国に曲げわっぱを紹介することで、新しい発想や刺激を感じることができたと振り返る。ワインクーラーやパーティトレイなど、これまでの製品サイズを大きく拡張する曲げわっぱづくりに手応えを得ながら、現地で気付いた新たな視点を国内に還元できるという確信も生まれた。

代々受け継がれて来た栗久のものづくりは、時代の流れの中で少しずつ形を変えながら進化、発展して未来へ、世界へと繋がっていく。「大館が誇る機能美と造形美を兼ね備えた工芸品を人々と共に成長させていく」という情熱を滾らせ、次代を目指す。



- A わっぱに象って乾燥させる。杉の柱目とフォルムが美しい。
- B 伝統的なおひつにも栗久ならではの細工が施されている。
- C 円錐型が特徴的なぐいのみ。
- D 伝統工芸として培ってきた手仕事で曲げわっぱの技の基本。

くりきゅう  
有限会社 栗久

〒017-0843 秋田県大館市中町38  
TEL 0186-42-0514 FAX 0186-42-9799  
E-mail kurikyu@kurikyu.jp  
URL <http://www.kurikyu.jp>

- 創業/明治7年
- 資本金/300万円
- 従業員数/13人
- 営業品目/工芸品(曲げわっぱ) 製造販売